

資源調査の目的

- 市内の障がい児通所支援等を行う事業所の抱えている悩みや困りごと、社会資源で不足していると思うことを中心に調査を行う。
- 市内の事業所での連携、情報共有等について調査を行う。
- 調査結果を分析し、地域課題を抽出する。

1

調査の対象

- 市内35事業所（平成27年8月1日現在）
⇒うち30事業所 回答
（回答率 85%）
- 児童発達支援センター
- 児童発達支援事業所
- 放課後等デイサービス事業所
- 日中一時支援事業所

2

資源調査の結果

【問1】事業を行う上で、「気を付けていること」「気にかけていること」はありますか？

(＜療育について＞＜運営面について＞それぞれ上位2つまで)

＜療育について＞

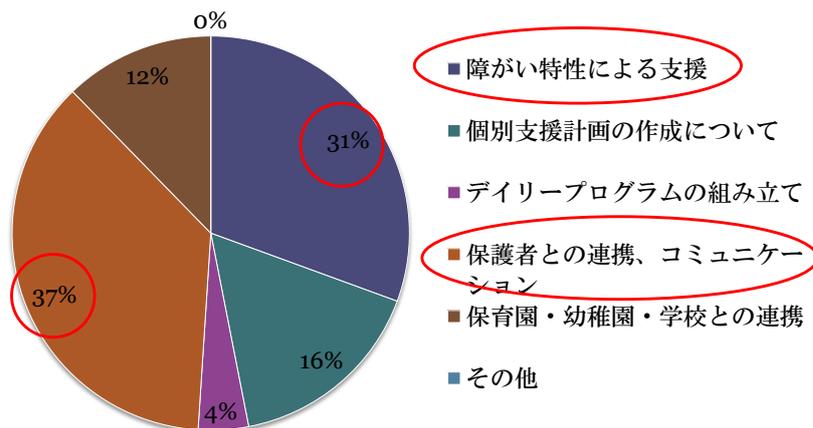
- 障がい特性による支援
- 個別支援計画の作成について
- デイリープログラムの組み立て
- 保護者との連携、コミュニケーション
- 保育園・幼稚園・学校との連携
- その他 ()

＜運営面について＞

- 事業所内の研修、職員への指導・育成
- 他の福祉サービス事業所と情報の共有
- 社会資源（相談先、研修会、講演会など）の情報収集
- 法や制度の改正などの情報収集
- 事業所の体制の整備（人材確保、資格要件など）
- 相談支援事業所との連携
- その他 ()

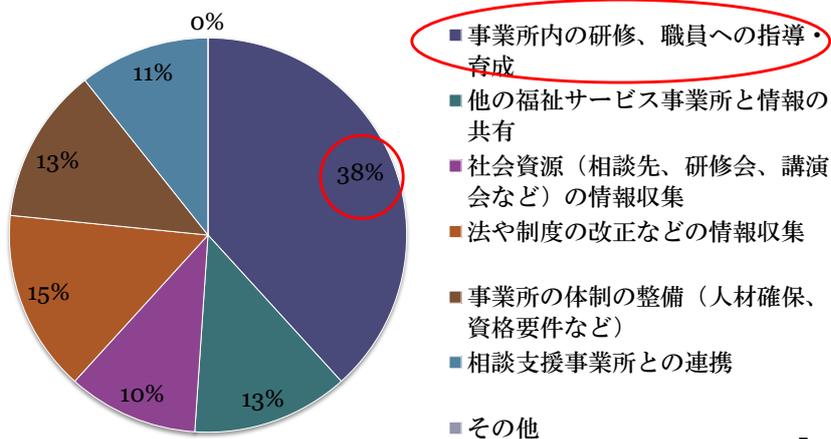
3

①気を付けていること・ 気にかけていること（療育）



4

①気を付けていること・
気にかけていること（運営面）



5

【問2】 今後事業を行う上で、関心のある内容、必要と思うことはありますか？

<連携について>

- 保育園・幼稚園・学校との交流会や連携が取れる体制の整備
- 相談支援機関との連携強化
- 専門家の派遣システム（巡回相談など）の実施
- 関係機関の交流や情報交換、連携が取れるような仕組みづくり

<研修について>

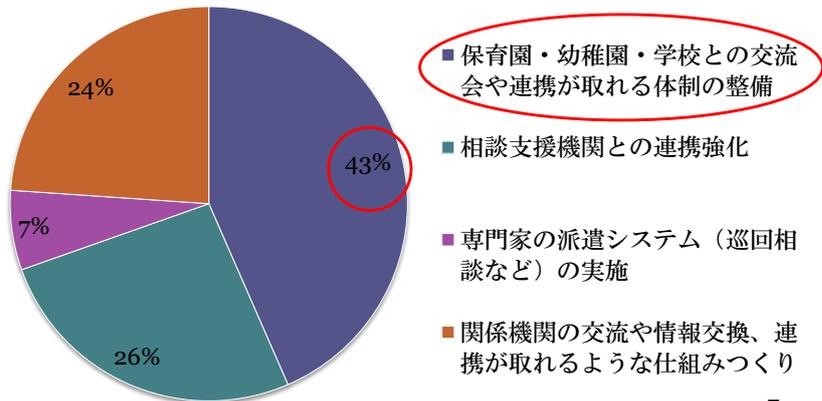
- 障がい特性に関する基礎的な研修
- 職員の専門性を向上させるための研修
- 法や制度の改正などがあったときの説明会

<その他>

- ()

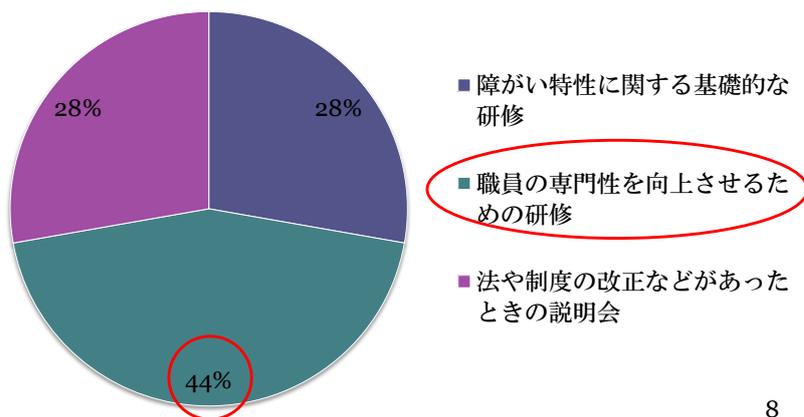
6

②関心のある内容
必要と思うこと（連携）



7

②関心のある内容
必要と思うこと（研修）

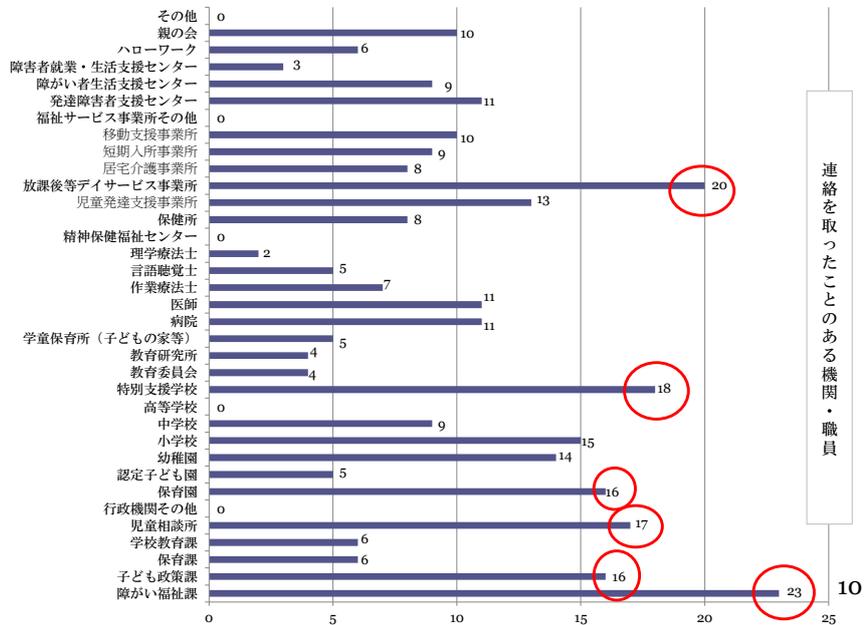


8

【問3】今までに業務を行う上で何らかの連絡を取ったことのある機関・職員はありますか？

- <行政機関> 障がい福祉課 子ども政策課 保育課 学校教育課
 児童相談所 その他 ()
- <保育> 保育園 認定こども園
- <教育機関等> 幼稚園 小学校 中学校 高等学校
 特別支援学校 教育委員会 教育研究所 学童保育所 (子どもの家等)
- <医療機関> 病院 医師 作業療法士 言語聴覚士 理学療法士
- <保健> 精神保健福祉センター 保健所
- <福祉サービス提供事業所> 児童発達支援 放課後等デイサービス
 居宅介護 短期入所 移動支援 その他 ()
- <相談機関> 発達障害者支援センター 障がい者生活支援センター
- <その他> 障害者就業・生活支援センター ハローワーク 親の会
 その他 ()

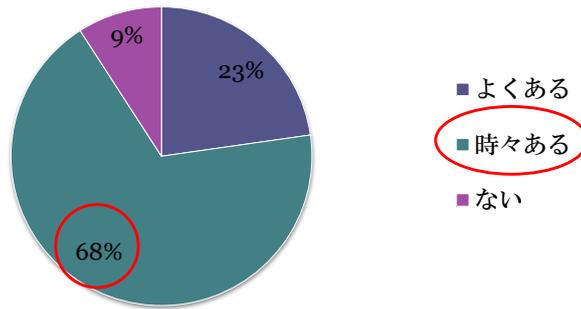
9



【問4】入園、就学、進学などの子どものライフステージに変化があったとき、他機関と連携（情報提供等）することがありますか？

よくある 時々ある ない

④他機関との連携

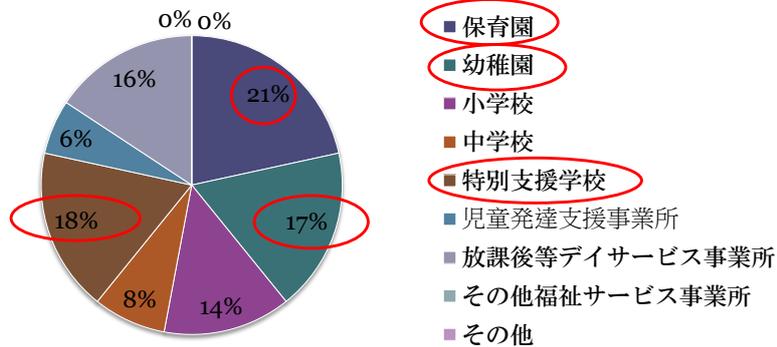


11

【問4】で「よくある」「時々ある」と答えた事業所にお聞きします。
連携することがあるのはどの機関ですか？

保育園 幼稚園 小学校 中学校 特別支援学校 高等学校
 児童発達支援事業所 放課後等デイサービス事業所
 その他福祉サービス事業所（ ）
 その他（ ）

④連携する機関

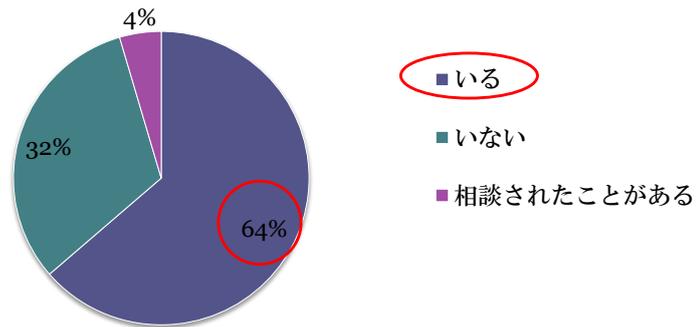


12

【問5】今までにサポートブックを活用されている保護者・家族はいますか？

いる いない 相談されたことがある

⑤サポートブック活用

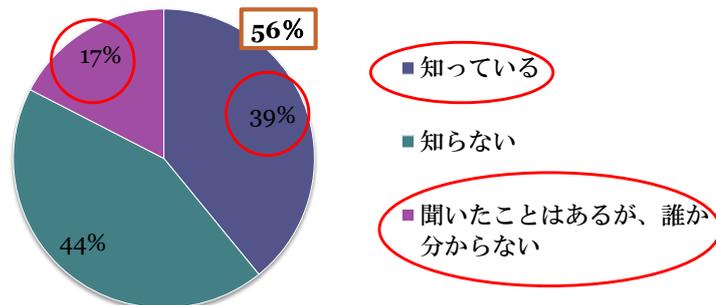


13

【問6】発達障害支援指導者を知っていますか？

知っている 知らない 聞いたことはあるが、誰かわからない

⑥発達障害支援指導者



14

今後の部会の方向性（役割）

【今すぐできそうなこと】

- ・人材育成やスキルアップを目的とした研修の機会を設ける。

人材育成やスキルアップ

効果・期待

⇒春日井市全体で質的向上に繋がり、
さらに横（事業所同士）のネットワークの構築ができるようになる。（顔の見える関係）

事業所同士のネットワークの構築

15

今後の部会の方向性（役割）

【これから考えていくこと】

- ・幼児期から学齢期のライフステージに応じた支援体制の構築を検討する。

**ライフステージに応じた
支援体制づくり**

効果・期待

⇒切れ目のない支援体制の仕組みづくりをすることで、他機関（園や学校等）との連携が取れるようになる。

16